

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成28年11月4日(2016.11.4)

【公表番号】特表2015-532560(P2015-532560A)

【公表日】平成27年11月9日(2015.11.9)

【年通号数】公開・登録公報2015-069

【出願番号】特願2015-536885(P2015-536885)

【国際特許分類】

H 04 W 56/00 (2009.01)

H 04 B 1/707 (2011.01)

【F I】

H 04 W 56/00 1 3 0

H 04 B 1/707

【手続補正書】

【提出日】平成28年9月14日(2016.9.14)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ワイヤレス通信の方法であって、

タイミングアドバンス値を変更するためのコマンドを受信するステップと、

指定された期間中に参照タイミングアドバンス値と比較してタイミングアドバンス値がしきい値量を超えて変化するとき、エラー状態を宣言するステップとを含む方法。

【請求項2】

前記エラー状態を宣言すると、現在のタイミングアドバンス値を維持するステップをさらに含む、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

現在のコマンドが前に受信したタイミングアドバンス値の方向とは異なる方向を有するタイミングアドバンス値を含むとき、エラー状態から復元するステップをさらに含む、請求項1に記載の方法。

【請求項4】

前記参照タイミングアドバンス値を維持するステップをさらに含む、請求項3に記載の方法。

【請求項5】

リセット期間内に別の誤りが宣言されないとき、前記参照タイミングアドバンス値を更新するステップをさらに含む、請求項1に記載の方法。

【請求項6】

前記エラー状態を宣言すると、送信電力を維持または増大するステップをさらに含む、請求項1に記載の方法。

【請求項7】

前記タイミングアドバンス値の前記変化が初期化後以降の一定期間後に測定される、請求項1に記載の方法。

【請求項8】

初期化が、ハンドオーバ、新しい呼の初期化、またはチャネルリソース再構成を含む、

請求項7に記載の方法。

【請求項9】

ワイヤレス通信のための装置であって、
タイミングアドバンス値を変更するためのコマンドを受信するための手段と、
指定された期間中に参照タイミングアドバンス値と比較してタイミングアドバンス値が
しきい値量を超えて変化するとき、エラー状態を宣言するための手段と
を備える装置。

【請求項10】

現在のコマンドが前に受信したタイミングアドバンス値の方向とは異なる方向を有する
タイミングアドバンス値を含むとき、前記エラー状態から復元するための手段をさらに備
える、請求項9に記載の装置。

【請求項11】

前記エラー状態を宣言すると、現在のタイミングアドバンス値を維持するための手段を
備える、請求項9に記載の装置。

【請求項12】

現在のコマンドが前に受信したタイミングアドバンス値の方向とは異なる方向を有する
タイミングアドバンス値を含むとき、前記エラー状態から復元するための手段を備える、
請求項9に記載の装置。

【請求項13】

前記参照タイミングアドバンス値を維持するための手段を備える、請求項12に記載の装
置。

【請求項14】

メモリと、

前記メモリに結合されるとともに、受信するための手段および宣言するための手段を提
供するように構成された、少なくとも1つのプロセッサと
を備える、請求項9から13のいずれか一項に記載の装置。

【請求項15】

ワイヤレスネットワークにおけるワイヤレス通信のためのコンピュータプログラムであ
って、実行されると、請求項1から8のいずれか一項に記載の方法を行うプログラムコード
を含む、コンピュータプログラム。